

高校生ステップアップ・プログラム

北海道追分高等学校

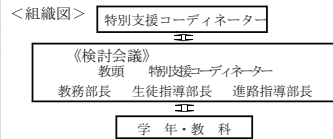
課程 全日制
 学科 普通科
 生徒数 116名

1 取組の特徴

生徒支援に向けて学校の体制を整え、外部講師を活用するなどして研修を実施することにより、教職員、及び生徒のコミュニケーションスキル向上の意識を高め、退学者の減少を目指した取組

2 取組のねらい

- 1 学級集団におけるコミュニケーションスキルの向上を図る。
- 2 自己表現能力の向上により、進路の自己実現を図る。
- 3 自主的に問題解決に取り組む姿勢を育成する。



3 取組の経過

- [6月]**
 ・教職員研修会
- [7月]**
 ・第1回「学級満足度調査」アセス
 1・2年生対象
 ・第1回構成的グループエンカウンター研修
 1・2年生を対象に各学年2時間
- [9月]**
 ・第2回構成的グループエンカウンター研修
 1・2学年を対象に各学年1時間
 パートナーティーチャー・スクールカウンセラーの助言
- [11月]**
 ・第1回ピアサポート研修
 本校教員・生徒会役員・学級代表生徒対象
- [2月]**
 ・第2回「学級満足度調査」アセス
 1・2年生対象
 ・第2回ピアサポート研修
 生徒会・学級代表生徒を対象
 ・教職員研修会

4 取組の内容

- 1 教職員研修会 (6月27日 本校教員及び近隣中学校教員4名対象)
 ア ねらい 教職員のコミュニケーションスキル向上及び効果的な指導方法を身に付ける。
 イ 内容 ①構成的グループエンカウンターの理論
 ②アクティブラーニングの仕組みと関わり技法
 ③演習(リラクゼーション) 2人1組で話をして聴く練習
- 2 第1回「学級満足度調査」の状況(7月6・7日 1・2学年生徒対象)
 ア 検査結果

	生活満足度	教師サポート感	友人サポート感	要支援領域内人数
1学年	49%	56%	47%	6名
2学年	49%	54%	48%	12名

 イ 分析結果
 <1学年>
 ・要支援領域内人数6名(要学習支援3名・要対人支援4名うち重複1名)
 ・友人サポートに課題があるので、サポートスキルを向上させるためのピアサポートトレーニング等の取組が必要である。
 <2学年>
 ・要支援領域内人数12名(要学習支援9名・要対人支援4名うち重複1名)
 ・要支援領域内人数がクラスの35%を占めることから、全体の底上げが必要である。

3 構成的グループエンカウンター研修

(第1回7月11日 第2回9月26日 1・2学年生徒対象)

- ア ねらい コミュニケーションスキルを向上させる。
 イ 内容 ①VTR「携帯依存」の視聴
 ②コミュニケーションの技法を知る(傾聴技法)
 ③共同絵画(非言語により相手の気持ちを理解し、時計の絵を描く)



ウ 成果 生徒自身がコミュニケーションの取り方について考える契機となった。

4 校内研修・情報交流

- (9月26日 本校教員対象)
 ア ねらい ①SGEの実施内容について検証し、よりよい指導方法について検討する。
 ②個別指導が必要な生徒に対する具体的な対応について検討する。

イ 内容 学級の状況の説明及び第1回アセス結果の説明

- ウ 成果 ①講師の助言を受け、SGEによる集団づくりのあり方や個々の生徒にあった指導方法について検討し、工夫・改善することができた。
 ②教員の支援に対する意識が高まり、生徒個々へよりきめ細やかな対応を行うことができるようになった。

5 ピアサポート研修

- (11月14日 教職員、生徒会役員・学級代表対象)
 ア ねらい ピアサポートトレーニングの基本を学ぶことにより仲間の援助活動を行うことができるリーダーの育成を図る。
 イ 内容 ピアサポートの説明及びロールプレイ
 ウ 成果 ①生徒会・学級委員のリーダーとして、日常生活における友人同士の声かけなどピアサポートの効果について考える契機となった。
 ②教員が生徒間におけるピアサポートの効果を認識することができた。

5 次年度に向けて

- 1 成果
 - ア 中途退学者の推移

	H20	H21	H22	H23
	26名	19名	7名	3名
 - イ 学級適応検査等の結果(第1回)

	生活満足度	教師サポート感	友人サポート感	要支援領域内人数
1学年	49%	56%	47%	6名
2学年	49%	54%	48%	12名
 - ウ その他の指標による評価
 - ・生徒の集団に対する意識をデータとして客観的に把握し、全教員で情報を共有し具体的な方策を考えることができた。
 - ・現2年生のスクールカウンセラーの面談数及び保健室相談件数の変化

	スクールカウンセラー面談数	保健室相談数
H22	24件	33件
H23	14件	14件
 - ・教師のサポートがよりきめ細やかに行われるようになった結果、面談数及び相談数が減少したものと考えられる。
- 2 課題
 - ア 年間計画の中で、コミュニケーションスキルアップのための研修会を定期的の実施し、その成果を継続的に検証する必要がある。
 - イ 全教員の共通理解のもと、生徒のコミュニケーションスキル向上を図るため、より効果的な取組を実施する必要がある。
 - ウ 今年度の成果を検証し、アセスの結果やSGE等の生徒の様子に基づいた指導方法のさらなる改善を推進する必要がある。
- 3 次年度に向けて
 - ア 生徒の状況を踏まえて課題を焦点化し、より効果的な研修の実施に向け年間を見通した研修計画を作成する。
 - イ アセスの結果について教員間で情報を共有化して一人ひとりの生徒に応じた指導体制を確立するとともに、教員全体でSGE等の実施後の評価を行い、教員の指導スキルの向上を図る。
 - ウ 生徒一人ひとりの自己表現の場を意図的に作っていくことにより、学校における生徒の居場所づくりを推進する。